

COG2025 応募内容確認書

ID	51-26-1
自治体名	広島県
自治体提示地域課題	シビックプライド、観光
チーム名	ヒバゴン応援隊
アイデア名	広島UMF探食隊-ヒバゴンが中山間地域を繋げる-
チーム属性	混成：市民と学生（ ）の混成チーム
チームメンバー数	7
代表者	大橋 優稀
メンバー（公開）	大橋 優稀, 安東 孝洋, 新田 光志, 部谷 彩希穂, 三澤 唯斗, 松島 隆一

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

地域課題解決プロジェクトアイデア提案書

広島UMF探食隊
～ARヒバゴンが繋ぐ、中山間地域の「食べる冒険」～

チーム名: ヒバゴン応援隊

該当自治体名: 広島県

本提案は、広島県の中山間地域が抱える「通過型観光からの脱却」という課題に対し、デジタル技術を活用したインフラツーリズムを強化することで、地域の新たな魅力を創出し、持続可能な発展に貢献するものです。



アイデアの全体像

このアイデアは、従来の観光モデルから脱却し、デジタル技術と地域のユニークな物語を融合させることで、訪問者に忘れられない体験を提供します。また、UMFの発見を通じて、地域経済の活性化と文化の継承を目指します。



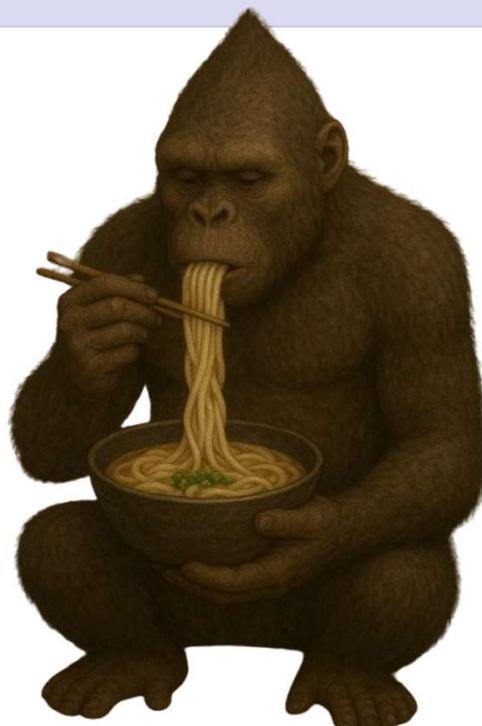
UMFの定義

広島の中山間地域には、希少な地域資源(柑橘、郷土料理、伝説など)が数多く存在します。これらを「UMF(Unidentified Mysterious Food:未確認食品)」と独自に定義し、発見と探求の対象とします。



ARヒバゴンのナビゲーション

AR(拡張現実)技術で3D化されたヒバゴンをナビゲーターとして起用します。ヒバゴンはユーザーを中山間地域の深い魅力へと誘い、単なる観光ではない「探索型アドベンチャー」を提供します。



Who,Howの具体化

Who(主体): 多様な専門性を持つチーム

本プロジェクトは、県立広島大学、岡山大学などの学生と、デジタル技術および地域政策の専門家による混成チームが推進します。若者の柔軟な発想と専門的知見を融合させ、多角的な視点からアイデアを具現化します。この協働体制により、学術的なアプローチと地域の実情に即した実践的なソリューション開発の両立を図ります

How(方法): DoboXとヒバゴンルート

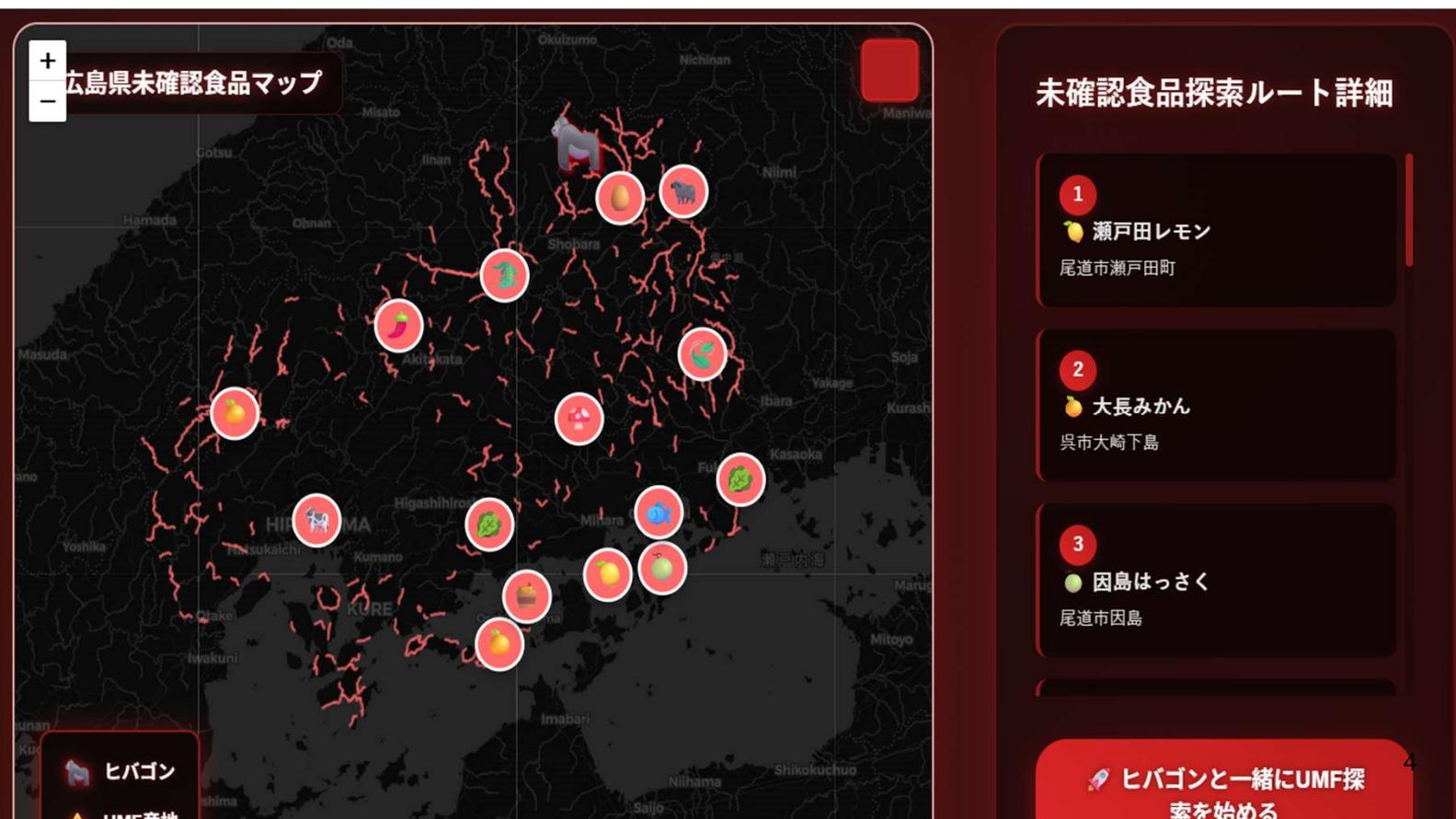
DoboX(広島県公認データプラットフォーム)のインフラデータを解析し、人目を避けて移動するヒバゴンの行動心理をシミュレーションした「ヒバゴンルート」を提供します。このルートは、単なる道案内ではなく、隠されたUMFへの「冒険の道」となります。

Who(ターゲット): 好奇心旺盛なニッチ層

世界の「土木・インフラファン」:DoboXのデータ連携により、インフラへの新たな視点を提供します。

「オカルト・UMA好き」:ヒバゴンという地域固有のUMA伝説が、彼らの探求心を刺激します。

「希少食を求める美食家」:UMFの概念が、未体験の食文化への興味を喚起します。



【Why】 アイデアの理由・背景

現状の課題：通過型観光の弊害

現在の広島観光は、宮島や原爆ドームといった著名な観光地に集中する傾向があります。これにより、豊かな自然や独自の文化を持つ中山間地域は「通過型観光地」となり、観光客の滞在時間が短く、経済波及効果が限定的であるという課題を抱えています。

デザイン思考：発見の喜びを創出

既存のインフラツーリズムが写真公開に留まる中、本プロジェクトでは「物語(ヒバゴン)」と「食(UMF)」を掛け合わせることで、これまで「不便」とされてきた中山間地域への移動自体を「発見の喜び」へと変える体験をデザインします。

この体験設計により、観光客は単なる消費から、地域の文化や歴史に深く関わる「探求者」へと変貌し、地域との新たな関係性を築くことができます。これは、地域住民にとっても、自身の地域の価値を再認識する機会となり、持続可能な観光モデルを構築します。



【Why】根拠とデータの裏付け

Data活用：DoboXによる科学的根拠

DoboXの提供する橋梁データ、道路規制情報、人口密度データをQGIS(地理情報システム)を用いて重層的に解析します。これにより、ヒバゴンの出現予測やUMFの生息域などを科学的根拠に基づいて推測し、精度の高い「ヒバゴンルート」を構築します。

このデータ駆動型アプローチは、単なるフィクションではなく、現実の地理情報に基づいたリアルな冒険体験を創出します。

効果予測：関係人口創出とシビックプライド向上

本プロジェクトは、UMF探索を通じて地域を訪れる「関係人口」の創出に大きく貢献します。また、AR(拡張現実)や生成AIといったデジタル技術による地域資源の再発見は、地域住民が自身の地域に誇りを持つ「シビックプライド」の向上に繋がります。

地域内外の交流が活発化し、新たな地域コミュニティの形成も期待されます。

【How】 プロセスと時間軸

実装体制

エコシステムの構築

開発は学生チーム「ヒバゴン応援隊」が中心となり、県内自治体観光課、地元農家、地域おこし協力隊と連携した持続可能なエコシステムを構築します。これにより、地域の声を直接反映したサービス開発が可能となります。

短期目標

Webアプリプロトタイプと実証実験

Webアプリプロトタイプを完成させ、特定地域(比婆山周辺等)での実証実験を行います。ユーザーからのフィードバックを収集し、初期段階での改善を迅速に行います。

リスク対応

オフライン対応と安全確保

中山間地域の通信環境が不安定なエリアへのオフライン対応を実装します。また、観光客の立ち入り制限区域のデータ連携により、安全確保を徹底し、事故やトラブルを未然に防ぎます。

必要資源

最先端技術の活用

DoboXのオープンデータを基盤とし、AR開発環境(Unity, ARKit/ARCoreなど)、そして生成AIによる3Dモデル生成技術を活用します。これにより、没入感のある体験を提供します。

中長期目標

ブランド化と横展開

SNS連動による双方向コミュニティ機能を実装し、ユーザー参加型のコンテンツを強化します。UMF認定商品のブランド化を進め、最終的には広島県全域への横展開を目指します。

